

講義名	自然観察入門		
科目区分	教養一般		
担当教員	南木 睦彦		
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 1時限		
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 / 2018年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2018年度 経済学部 経済情報学科 / 2018年度 経済学部 経済学科 / 2018年度 商学部 マーケティング学科 / 2018年度 商学部 経営学科 / 2017年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2017年度 人間社会学部 観光学科 / 2017年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2017年度 経済学部 経済情報学科 / 2017年度 経済学部 経済学科 /		
履修開始年次	1 年生	単位数	2
		講義コード	31016

主題と概要
身の回りの「自然」を観察することを通して、自然について学ぶ科目。観察眼を鍛え、記録の技術を学ぶ。観察結果を記録することばの豊かさを身に付け、要所をとらえた描画の力を付ける。教室内外で様々な自然観察の機会を作る。様々な観察を通して学ぶ視点は次の通り。 1．特定の視点や仮説を持って自然を見ると、それまでには見えていなかったものが見えてくる。普段は眺めているだけで、「観察」はしていないことが分かる 2．仮説を持たずに自由観察することもある。2回のネイチャーゲームを通じて、「自分で発見する」「自分で気づくこと」の大切さを学ぶ 3．生物は進化の結果現在の姿になっており、形や構造は機能と密接な関係があり、合理的にできている 4．観察対象によって、見どころは異なっている。観察の「コツ」がある 5．進化的に近縁な種類は形や構造に共通点がある 6．種類分け(分類)には様々な手法がある。種類分けをするための観察をすると、新たな気づきを得ることができる

到達目標
自然に関する興味や関心を増す。 自然を観察する基礎的な技能を身につける。

提出課題
毎回の授業で、その日の観察で作成したレポートを提出する。このほかに一人ずつがテーマを持って授業時間外に継続的に観察をして、そのレポートを提出する。

評価の基準
毎授業時の提出物60%、個人による授業時間外継続観察レポート40%。 毎授業時の提出物は1回につき4点で採点し、4点×15回で60点になる。「出席点」ではないことに注意すること。提出物があまりにひどい場合はマイナス点がつくこともあるし、非常に優れている場合は4点よりも高い得点(4.5点、5点)をつけることもある。 授業時間外継続レポートの詳細は授業中に説明する。

履修にあたっての注意・助言他
ルーペか虫眼鏡など低倍率の拡大鏡を各自で用意することが望ましい。詳細は第1回目授業で説明する。実習的な授業であるため、遅刻は決してしないようにすること。

教科書
.使用しない。.

プリント資料及び参考文献
毎回の授業開始時に当日資料を配布する。

授業計画
天候等により、観察の順や対象が変更になることがあります。 を付けた課題は屋外で実施します。 1．指紋と掌紋 2．葉脈 3．流通科学大学自然観察ビンゴ（ネイチャーゲーム） 4．空と雲 5．大学周辺の土地利用 6．カモフラージュ（ネイチャーゲーム） 7．ドングリの仲間 8．マメ科種実の観察 9．種実ミックス（ハムスターのえさ）の観察、分類と同定 10．出汁じゃこ（カタクチイワシ）の観察 11．落ち葉の分類と同定 12．飛ぶ種ペーパークラフト 13．チリモン分類同定 14．映像資料を用いた動物行動の観察 15．授業時間中作成レポート返却と講評、ふりかえり

予習・復習
毎回の授業については、予習復習の必要はない。 期末レポートの作成には、短い学生で数時間、長い学生では数カ月かけている。レポートの作成に用いた労力も評価対象であるから数時間の労力では高い評価は望めない。少なくとも、半日～数日の労力を用いる学生が合格者には多い。 授業時間外学習時間は、数時間～100時間以上と人によって大きく異なるが、合格者の平均像は15時間～50時間程度であるうか。

備考